

令和 7 年 10 月
水 産 庁

みなみまぐろ保存委員会（CCSBT）第 32 回年次会合の結果について

1 みなみまぐろ保存委員会（CCSBT）

ミナミマグロの持続的利用を目的とする国際機関。

メンバーは日本、豪州、ニュージーランド、韓国、台湾、インドネシア、南アフリカ、EU の 8 か国・地域。但し、EU は今回、欠席。

その他、オブザーバーとして関係する NGO が参加。

2 日時・場所

令和 7 年 10 月 6 日（月）から 9 日（木）までバリ（インドネシア）で開催。

3 我が国出席者

三輪水産庁資源管理部参事官（我が国代表）ほか、水産庁、外務省及び業界の関係者。

4 結果

（1）ミナミマグロの総漁獲可能量（TAC）

科学委員会からの勧告に従い、2026 年について、現在の総漁獲可能量（TAC）である 20,647 トンを維持することで合意された。

（2）ミナミマグロの国別配分

2026 年漁期の国別配分について、表のとおり現行の値を維持することで合意された。

（3）次回年次会合

令和 8 年（2026 年）10 月にブリュッセル（ベルギー）で開催予定。

[表]2024 年～2026 年における総漁獲可能量及び国別配分

	2024-26 年	(参考) 2021-23 年
日本	7, 295t (※ 1)	6, 245 t (※ 1)
豪州	7, 295t	6, 245 t (※ 2)
韓国	1, 468t	1, 257 t
台湾	1, 468t	1, 257 t
インドネシア	1, 315t	1, 095 t
NZ	1, 288t	1, 102 t
南アフリカ	500t	428 t
E U	13t	11 t
調査漁獲枠	6t	6 t
合計	20, 647 t	17, 647 t

※ 1 : 我が国から、インドネシアに 21 トン、南アフリカに 27 トンが毎年移譲される。

※ 2 : 豪州から、7 トンがインドネシアに毎年移譲される。